第４回国際園芸アカデミー有識者会議事概要

開催日時：令和２年７月 22 日（水）15:00～16:00
開催場所：県庁４階　特別会議室
出 席 者：加藤 孝義　　清流の国ぎふ花き戦略会議 会長
櫻井　宏　　岐阜県農業協同組合中央会 会長
柿本 亜矢　　(公社)日本フラワーデザイナー協会 岐阜県支部長
橘　俊光　　(一社)日本公園緑地協会常務理事
上手 繁雄　　(一社)岐阜県観光連盟　相談役
谷 基　　岐阜県高等学校農業校長会 会長
上田 善弘　　花フェスタ記念公園　理事
涌井 史郎　　東京都市大学特別教授
河合副知事
＜Ｗｅｂ会議形式にて、以下４名はリモート出席＞
磯村 信夫　　日本花き振興協議会　会長
齋藤 志穂　　麓farm共同代表
澤田 みどり　NPO法人日本園芸療法研修会代表理事
松尾 真吾　　岐阜生花市場協同組合　理事長　　計１３名

１　議　事

・これまでの主な論点と今後の検討の方向性〔農産園芸課〕
・今後の検討の方向性と進め方について〔農産園芸課〕

２　委員の主な意見

（ポストコロナ時代における園芸業界のあり方について）

・コロナによって、家で過ごす時間が増えたことで園芸を楽しむ人が増えた。また、無印良品やユニクロなどが花を売るなどという新たな開拓が広がるのではないか。
・園芸療法が今こそ必要な時であるが、コロナにより施設入所者と接触ができない。施設のスタッフが入所者に楽しんでもらうため、園芸を活用した活動を行っている。園芸のニーズは高まっている。
・コロナ禍により在宅時間が増え２０代の花の需要が伸びた。
・今まで参入しなかった企業が花に参入しており、ＩＴ企業など新たな異業種企業の参入も見られる。また、近年、花の定期購入（サブスクリプション）が伸びている。
・コロナ禍で思うことは、東京でなくても働けるということ、場所が限定されない働き方ができるということ。そういった中で岐阜らしさを持つことは大切である。

・コロナの影響で花の需要期である「母の日」前後は大変厳しかったが、国の手厚い支援策や、家庭消費が伸びていることもあり、コロナの影響は緩和されてきている。ただ、ネット販売や、ＳＮＳによる情報収集などができない生産者は厳しいのではないだろうか。
・コロナ禍において、ライフスタイルの提案を行っていくことが重要。

（花の振興機関（コンソーシアム）・教育環境の充実について）
・森林文化アカデミーを見せていただいて、演習林の中に学校があるのは素晴らしい。実践の場がすぐそばにある。そういう事を考えると国際園芸アカデミー（以下、アカデミーという。）も将来的に花フェスタ公園内にあるのが相応しい。
・アカデミーは農業高校から毎年、何名かが進学している学校である。専門的で、実践的な技術を学ぶ場として学生にとって重要である。
・アカデミーの学生については、将来性のある人として期待している。利益を上げられる知識が必要なのではないかと思う。
・異業種業界からの提案により、販路拡大を進めることが生産拡大にもつながるのではないか。コンソーシアムでの議論の中でそういった意見が聞けるとよい。
・産学官金連携のコンソーシアムの考えに大いに賛成である。
・コンソーシアムにどれだけ情報を持っているかが重要なので、そのようなコンソーシアムとなればよい。
・コンソーシアムは業界の壁を越えて、なるべく幅広い人が集まり、花きの新たな需要を検討できるとよい。
・コンソーシアムは幅広い多様な分野の方が入って議論するスタイルにすることが重要。
・コンソーシアムに消費者（買う側）や広報を入れるとよい。
・コンソーシアムを含む「花と緑の振興機関」と「アカデミーの教育環境の充実」について、ワーキンググループを設置して内容を検討していってはどうか。（全委員賛成）

副知事（所感）
・「花と緑の振興機関」と「国際園芸アカデミーの教育環境の充実」という密接にかかわる２つの課題を検討の柱として、委員の皆様方に多方面から大いにご議論いただいた。
・「産学官金連携コンソーシアム」とそれを含む「花と緑の振興機関」については、果たす役割と機能について、そして、「教育環境の充実」については、

フィールドの機能強化や実習施設整備、花フェスタ記念公園の有効活用についてワーキンググループを設置し、検討を進めていただきたい。

・ワーキンググループを早めに立ち上げないと議論が解決しないため、事務局としてもできるだけ急いで進めていく必要がある。